

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700115		
法人名	社会福祉法人 慈徳会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	三重県松阪市下蛸路町376番地1		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町提出日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490700115-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 1 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来るだけ玄関の施錠も行わず、開放的な事業所作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松阪市の中心部から少し離れた郊外に立地しており、平成22年に現在の運営法人に引き継がれたものの本年度で通算13年目を迎える事業所である。事業所周辺は同じ運営法人による特養、ショートステイ、デイサービスなどが展開されており、地域の福祉ゾーンとして地元自治会とも深い関係にある。また国道や主要道路が近くを走る交通至便の環境は利用者家族や知人、友人が訪れやすく本事業所の大きな利点となっている。事業所の理念としては運営規定の中から文言を取り「家庭のような温かさ」としており、分かり易く明快なこの理念を全職員がよく理解し支援の中心に据えて日々努力を重ねている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「家庭のような温かさ大切に」を常に目につくところに掲げ、ユニット会議で読み上げるにより理念の共有と確認を行っている。	運営法人とは別にグループホームとして「家庭のような温かさ」という理念を掲げている。これは数年前に職員自らが運営規定の中の文言を引用する形で考えたもので、文字通り分かり易く全員が理解し日々の支援に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との日常的な交流はほとんどない。夏祭りや防災訓練は共同で行っている。	自治会には所属していないが隣接する同じ運営法人の特養が地域と30数年来の繋がりがあり、ここを窓口として様々な交流がある。例えば夏祭りや防災訓練などを自治会や子供会等と合同で行っており、地域の一員としての地位を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。運営推進会議にて自治会代表の参加者に対しては事業所内での支援の方法等は報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では個別ケア報告や事業所報告を行い、参加者からの意見等を取り入れてる。	運営推進会議は2カ月に一度実施されており、自治会長や民生委員、家族会代表らが積極的に参加している。また議事録等も丁寧にまとめられ不参加者に配るなど配慮されているが、毎回のテーマが運営報告とそれに対する意見出しと固定されつつある。	自治会長や民生委員等に積極的に参加してもらえる機会は貴重であり、会議を更に有意義なものにするためにも地域や生活などにもテーマを広げ、その都度講師を呼ぶなど工夫して今後の支援に生かされる推進会議とされるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入所者状況や運営推進会議にて事業所報告等を行っている。	松阪市では、市が事務局となって市内全福祉事業所を対象とした「サービス連絡協議会」を組織しており、その中で2カ月に一度開かれる「グループホーム部会」に事業所として参加し、市等との情報交換を積極的に行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修に参加し、身体拘束にあたる行為を学んでいる。できる限り玄関の施錠もしないように取り組んでいる。	同じ運営法人の各事業所が横断的に「施設安全委員会」、「接遇推進委員会」を組織しており、この中で身体拘束防止マニュアルを作り研修や事例研究を行っている。家族には契約の時点で様々なケースや場면을説明し理解を得ているが、未だその事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加し、虐待について学んでいる。自分たちが行う行為が虐待にあつていないかお互いに確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し、権利擁護について学んでいる。実際に活用できるようにまで支援しきれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には直接説明を行い、不明な点については随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット内に意見箱を設置している。引継ぎに利用者、家族からの要望欄を作り職員が把握できるようにしている。	家族会は組織されているものの意見として出されることはない。むしろ個々の面会時に様々な話が出されることが多いが、それも直接的に運営等に係る意見が出されることは少ない。事業所としてはできるだけ意見・要望が出され易いような雰囲気作り心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に機会を設けてはいないが、管理者へ意見を言いやすいような職場を心掛けている。	職員からの意見としては、毎月のユニット会議の他、普段の業務の中でユニットリーダーや管理者が聞き取るようにしている。更に意見によっては管理者から施設長に伝え対処するという一定のルールも出来上がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一回運営定例会を開催し、法人内事業所の運営状況等を報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加やOJTを実施し、介護技術、知識の向上が図れるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一回開催されるグループホーム部会へ参加し、情報交換を行っている。また、事業所見学を年に一回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し事前調査を行い、職員と共有する。入所初期は関わりを多く持ち、関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に訪問し、事前調査を行なう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が安心して生活できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「身体症状」ご利用者の自分に意思ではコントロールできない部分などをふまえ、毎日気分良く生活出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来やすい雰囲気を作っている。担当スタッフが毎月の「おたより」により日常のご様子、医療面、ご連絡を情報提供し、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所(美容室や理容室)を大切な環境と理解し、支援に努めている。	利用者は市内各所から来ており馴染みの場所も様々であることから、全ての希望に応えることは難しいが家族の協力のもと出来る限りの支援をしている。また、面会も多く家族のほか友人・同僚・近所の人など多彩で事業所としても関係継続を積極的に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気分の良い時は頑張りすぎたり、はしゃぎ過ぎたりしがちでも調子が悪い時はやる気がなくなってしまうまいよう工夫しながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	引き継ぎ帳に「利用者、家族の要望詳細欄」を用意し、要望を把握した際は記入している。	意向の分かり難い利用者が多いが様々な場面において積極的に会話の機会を作るようにしており、ちょっとした言葉や仕草などからキーとなる部分を拾い上げて引継帳に記載し職員皆で共有して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とコミュニケーションを取り、入手した情報は介護記録への記載により職員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が毎月モニタリングを行う。また、24時間シートを活用し、個別ケアの徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の声を大切に、ご家族の面会時の聞き取り、会議。職員の介護記録の意見を反映している。	日常の支援の中でそれぞれの担当者がモニタリングを行い、ケアマネージャーが集約して毎月のケア会議に全員で検討している。家族への説明は面会時に行い、意見があればその都度調整するなど常にきめ細かい支援となるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	書きとめておく帳面やホワイトボードなどを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所では困難なサービスは同法人の特別養護老人ホームなどのバックアップを活用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域からの情報を得ているが、把握は困難である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としての協力医はいるが、入所前から掛かっている医師への受診を希望される場合は受診援助も行っている。	専門科以外は殆どどの利用者を協力医が診ており、往診は1～1.5ヶ月に1度来てもらっている。また所定の調剤薬局も療養管理指導の一環として積極的に関わって、利用者・家族の安心となっており、医療的には充足している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師は不在であるが、往診時や通院時には同行し、情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された病棟への情報提供や医療相談室との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時に事業所のできる終末期の対応について伝えている。また、医師からターミナル宣告された時点で家族から同意書を取っている。	看取りは実施する方針であり、家族には事業所として出来ること出来ないことを充分説明し、更に協力医と医療行為の連携が取れることを前提に実施に踏み切っている。職員研修等は特段行っていないが、現場での実際の支援の中で研鑽を積みこととしており、これまで年1～2人の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修に参加して、緊急対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域協同防災訓練や夜間想定避難訓練を実施しており、法人として地域と協力体制を取っている。	災害対策としては主に火災を想定して年3回、それぞれに違ったテーマを設定して行っている。昨年は夜間想定避難・新人防災・初期消火などを消防署の指導の下、自治会とも協力して実施した。また地域の公共避難先が遠く、施設全体を自治会の避難先とする協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月委員会指導のもと、「これは絶対」という決まり事を決め、守る。	運営法人による「接遇推進委員会」で毎月目標を立てそれによって支援の充実を図っている。特に利用者への呼称のあり方、部屋の開け閉め時の気遣い、トイレ誘導などはプライバシーの根源的なことであり全職員が強く意識して支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	引き継ぎ帳の「要望欄」を利用する。実現が困難でもご本人、ご家族の要望を聞き、会話に取り入れたり、気持ちを受け止めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	病院受診や外出等がある場合は入浴時間を調整したりと柔軟な対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一仕事所での理髪サービスはあるが、通い慣れた理髪店への定期送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は特別養護老人ホームの調理室が調理している。後片付けを手伝って頂く時もある。	食事は同じ施設内の特養の管理栄養士が献立を作り、委託業者が調理したものを届けてもらっているが、イベント時にはグループホーム独自にクエストを出したりしている。外食は年数回であるが家族の協力もあり利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の活動量や糖尿病など病気の特徴を理解し、常識の範囲内でチェック、コントロールを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて法人内の研修に参加している。希望者には歯科への定期的な受診及び往診も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	OWNLIFEにてご利用者の個別状態把握を行なった上、定期誘導時間を書き込むよう努めている。	各ユニットとも約半数の居室にトイレがあり、それ以外でも部屋の出入り口にトイレが配置されており利用者の安心となっている。自立と介助は概ね半数ずつでそれぞれ管理表を作成して職員で共有し支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を徹底的に探り、アクティビティの個別活動記録を活用している。食事に食物繊維を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴中にCDをかけたり、本人が気乗りしない時は無理に勧めず時間をおいて対応するよう努めている。	ユニットごとに曜日を決めて、午前午後フル活動して原則週3回は入浴できるようにしている。入浴剤などは使っていないが、季節によって「柚子湯」「菖蒲湯」などにする他、普段から入浴が楽しめるよう誘導や会話などを工夫しながら支援に当たっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時から一日のリズムを作るよう努めている。朝の光を浴びて身体が目覚めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の目的を周知し、正しく服用できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の習慣を理解し、ひと工夫しながら支援している。コーヒー等の趣向品提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アクティビティの個別活動記録を活用している。ラーメン店や喫茶店等個別に外出できるよう支援している。	日常的には、広い施設の庭を外気浴的に自由に散策したり、花壇の草引きなどを楽しんでいる。また家族の協力も含めてドライブや食事に出掛けたり、暖くなれば花見など季節や、場面に応じた外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として金庫内で管理している。買い物など必要に応じて使って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を自由に使って頂いている。手紙などの投函は職員が外出した際に行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも落ち着ける空間を作る為、ソファの位置や室内で楽しめる花を配置したり工夫している。	玄関を入ると左右がそれぞれのユニットになっており、真ん中に事務室など管理スペースを挟んで広い居間、食堂、そしてその周りに居室が並ぶ配置となっている。いずれも天井が高く天窓から入る自然光が目優しい空間になっており、利用者は日中の殆どの時間をここで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の和室空間にホットカーペットを敷き、洗濯畳などを落ち着いてできる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはご利用者と相談しながら配置している。使い慣れた家具などの持ち込みは常識範囲内であれば制限は行っていない。	居室は洗面台やクローゼットなどが完備されて比較的広く、そこに机や筆筒など使い慣れた家具などを運び込んで居心地を楽しんでいる。掃除や片付けは職員が行っているが、利用者が手伝うことも多く、常に清潔に保たれて快適な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護にならないよう無理のない範囲内で家事等をご自分で行っていただけるよう努めている。		